

会 議 録

会議の名称		令和2年度第2回つくば市在宅医療・介護連携推進協議会		
開催日時		令和3年(2021年)3月8日(月) (書面郵送)		
開催場所		書面会議により実施		
事務局(担当課)		保健福祉部地域包括支援課		
出席者	委員	飯岡 幸夫会長、田宮 菜奈子副会長、小室 伸一副会長、吉場 勉委員、志真 泰夫委員、成島 淨委員、加園 真樹委員、根本 知砂子委員、荒井 富枝委員、芥川 知己委員、齊藤 秀之委員、岩本 美香委員、中川 広子委員、瀨野 淳委員、下村 千里委員、小關 剛委員、室生 勝委員、児玉 智之委員、飯泉 孝司委員、松浦 幹司委員		
	その他			
	事務局	地域包括支援課：会田課長、中島師長、柳田係長、藤田社会福祉士、村田保健師		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由		緊急事態宣言による書面会議への変更のため、傍聴不可。		
議題		(1) 令和2年度 事業報告について (2) 令和3年度 事業計画について (3) その他		
会議次第	1 議題	(1) 令和2年度 事業報告について (2) 令和3年度 事業計画について (3) その他		
	2 会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 令和2年度つくば市在宅医療・介護連携推進協議会 事業報告 ・資料2 令和3年度つくば市在宅医療・介護連携推進協議会 事業計画(案) ・資料3 つくば市医療と介護のありたい姿の評価指標検討のため収集した数値の一例 ・資料4 医療と介護が共通する4つの場面ごとに整理した指標図 		

書面により、委員から以下のとおり御意見をいただきました。	
(1) 令和2年度 事業報告について ※(資料番号-頁) 内容	
下村委員 事務局	(資料1-5) ハートページは患者さんがよく持っていけます。介護情報が伝わりやすくよいと思います。 引き続き市民にとって有用な情報提供ができるよう活用してまいります。
下村委員 事務局	(資料1) 新型コロナで退院前カンファレンスがほとんど実施されず、チェックリストは活用されていない。 退院前カンファレンスに限らず、多職種が利用者の支援を検討する場において活用されるよう、退院前情報共有チェックリストの周知について、実務部会で検討し、普及啓発を図ります。
志真委員 事務局	(資料1) 新型コロナウイルス感染症の流行の下で5つの実務者部会を課題ごとに設けて、2回の意見交換会、2回の研修会を実施できた実績は評価するが、在宅医療・介護でCOVID-19にどのように対応したか、あるいはしなかったか、記載がないのは残念です。 本協議会において、COVID-19に直接対応することはございませんでした。
荒井委員 事務局	(資料1-5) 連携タイムの周知や、お薬手帳・ツクツク見守りたい等の普及啓発についてですが、社会資源というテーマで来年度のケアマネ連絡会で研修が持たれそうなので、その中で一定時間を割いて話し合う時間を持つても良いのかもしれませんが、折角の貴重な資源が多忙な業務の中で埋没しがちでもったいなく感じます。自戒の念をこめて。 ご提案ありがとうございます。ケアマネジャー連絡会と協働で普及活用できる体制を整えていきたいと考えています。
松浦委員	(資料1) マネジメント手段として、PDCA サイクルを取り入れたことはよいことだと思います。 PDCA サイクルに沿った取り組みを継続的に行うと記されている、そうであれば、令和2年度の事業計画がどこまで出来て、何が出来なかったかをチェックすることが必要です。そのためにはア〜クの活動項目に対してその年度の到達目標を出来るだけ数値化しておくことが必要です。

事務局	<p>事業計画の到達度を確認、評価しながら、次年度の事業計画を策定してまいります。事業の評価指標に関しては引き続き実務部会で検討してまいります。</p> <p>(ク)に関しては、在宅医療・介護連携推進事業の見直しがされ、関係市区町村の連携から、都道府県主体の役割(保健所等の活用)に変更からされました。</p>
成島委員	<p>(資料 1-12、17) 実際には診療現場で市の準備したお薬手帳をみたことがありません。患者の持参したお薬手帳の 1 ページに患者情報記入欄がありますがほとんどが未記入でした。</p>
事務局	<p>事務局では、情報共有・連携ノートを協議会等で意見を受け作成しましたが、平成 30 年度にケアマネジャーに対して実施した調査で活用されていない状況でした。現在はお薬手帳の活用を推進しています。</p> <p>R2 年度実施したお薬手帳活用に関するアンケート結果からは市民、専門職ともお薬手帳の患者情報記入欄の記載への意識は低いことがわかりましたので、普及啓発に努めます。</p>
児玉委員	<p>(資料 1-15) ○○ケアマネジャーの所属は、「いちほら介護支援センター」では？それとも同姓同名ですか？</p>
事務局	<p>誤記載です。正しいご所属は「いちほら介護支援センター」です。</p>
斎藤委員	<p>(資料 1)</p> <p>1) 情報集約、ケア会議の課題は例年通りの印象。北茨城市のようなワンストップのセンターを設置して、セクトとヒトを集約・配置していくようなダイナミックな施策を講じる時期ではないだろうか？</p> <p>2) 相談内容の分析からその傾向を知りたい。</p> <p>3) ACP のみに傾注している印象が強く、中重度者の生きがいや生活支援を検討するため、対応策を検討するような事業が見えない。そうした事業が必要ではないか？</p>
事務局	<p>1) 実務部会は課題に応じて設置することから、それぞれの部会の必要性を検討し再編しております。</p> <p>2) 地域包括支援センターが全圏域設置されましたので情報を整理し相談内容の分析をしていく予定です。</p> <p>3) 本事業で優先順位が高い取り組みは医療と介護の専門職の連携、ACP や在宅医療の普及啓発と考えております。課題に応じて</p>

	在宅医療介護連携の推進に必要な内容を検討しながら取り組んでまいります。
濱野 淳 事務局	<p>(2) 令和3年度 事業計画について</p> <p>(資料2-6) ACP 出前講座の目的は、改めて検討が必要でしょうか。また、内容についても吟味が必要かと思えます。行政のメッセージとして受け取られることを認識する必要があると思えます。</p> <p>在宅医療介護啓発講座部会で内容を検討してまいります。また、委員、協議会外の専門職にも意見聴取してまいります。</p>
下村委員 事務局	<p>(資料2) オンライン研修は好評だったので、さらに充実させていくといいと思えます。</p> <p>オンライン形式により、今まで参加が難しかった方にもたくさんご参加いただきました。引き続き内容を充実させてまいります。</p>
下村委員 事務局	<p>(資料2) 新型コロナの家庭内感染が増えています。在宅の高齢者を守るためにサービス提供者の感染対策が重要です。研修、防護服の供給など至急取り組みましょう。</p> <p>感染症対策の強化、業務継続の取り組みについては、主任介護支援専門員連絡会で対応いたします。防護服の供給等の取り組みについては、当事業での実施は検討しておりませんが、現場の現状や課題について、関係各課と情報共有いたします。</p>
志真委員	<p>(資料2) 「ホームページの随時更新」となっていますが、医療介護職向けの内容と市民向けの内容が混じっており、ホームページの構成の見直しが必要ではないか。</p> <p>2) 「課題に応じた実務部会の設置」となっているが、現在5つある実務部会の整理も含めた見直しが必要ではないか。</p> <p>3) お薬手帳の活用、在宅医療・介護における 本人・家族のための多職種連携で気をつけたい 10 ポイント、退院前情報共有チェックリストが現場でどの程度活用され、浸透しているのか、評価が必要ではないか。</p> <p>4) メディカルケアステーションという名称が出ているが、ほかの情報ツールも含めて情報連携ツール検討部会で検討する必要があるのではないか。</p> <p>5) 医療介護職向けの意見交換会、研修会（どこの部会が担当で</p>

事務局	<p>すか?)と市民向けの出前講座、健康フォーラムつくば(市民啓発部会)とは計画と部会を分けて記載したほうが良いのではないか。</p> <p>6) ACPについては医療介護職への普及と啓発と理解が十分とは言えず、市民啓発に広げるのは慎重にしたほうが良い</p> <p>1) ホームページの構成について内容を分かりやすく整理します。</p> <p>2) 実務部会の設置については課題に応じ設置、再編を行います。</p> <p>3) お薬手帳に関してはR2年度にアンケートを実施しました。市民・専門職ともお薬手帳の活用状況は依然浸透していない状況でした。周知・活用について実務部会において検討していきます。</p> <p>4) 地域包括支援センター間において個人情報取扱わず、MCSをイベントや研修情報の掲示板として利用しています。その他の情報共有・発信の仕方について実務部会で検討してまいります。</p> <p>5) R2年度は意見交換会を検討する部会は設置しておりませんでした。研修会については研修部会が担当です。今回の事業計画はPDCAサイクルを主軸にそれぞれの対応した旧ア〜クに分類して記載させていただきました。R3年度部会の設置(案)については別途作成しております。</p> <p>6) ありがたい姿2の評価指標として「市民のACPの周知度」を挙げています。ACPについては専門職への実務における啓発・普及と市民への周知啓発について、実務部会や協議会外の専門職へのヒアリング等により検討いたします。</p>
荒井委員	<p>(資料 2-2、2-5) つくば市の医療と介護の現状分析の為の現場の専門職からのヒアリングについてですが、多忙な現場スタッフに行うに当たっては、効率的で負担ならない方法を講じていく必要があると思います。</p>
事務局	<p>協力いただく専門職の負担を最小限に、作業方法を検討してまいります。</p>
荒井委員	<p>(資料 2-5) 地域の医師・ケアマネによる在宅医療・介護啓発講座とつくば市出前講座が重複しているように感じますが、出前講座は少人数・対象者下限定というイメージでしょうか? また啓発講座を複数回とありますが、先の見えないこのコロナ禍において現実的でしょうか。</p> <p>在宅医療介護啓発講座は本協議会独自の事業です。</p>
事務局	

	<p>出前講座は主管課（生涯学習推進課）が生涯学習の推進、市政に関する理解、地域づくりへの参加の促進を目的とし、市民から依頼を受けて市職員が依頼内容に合わせた講座を行うものです。住民の方からは対面での講座を希望するお声もあります。市のイベント開催方針に基づき少人数制で実施していくことが望ましいと考えております。</p>
松浦委員	<p>（資料2）今年度の活動目標が昨年とほぼ変わっていないので、PDCA サイクルに沿って言えば、資料1の実績報告がどのように資料2につながっているのかが読んで分かるようにすることが必要と思います。</p>
事務局	<p>改善に努めてまいります。</p>
成島委員	<p>（資料2-5、6）情報共有支援でICT活用は必要ですが、MCSに限定してよいのでしょうか。県医師会が主導した情報共有システムもあるのですが。</p>
事務局	<p>地域包括支援センター間において個人情報取扱わず、MCSをイベントや研修情報の掲示板として利用しています。その他情報共有・発信の方法については実務部会で検討してまいります。</p>
斎藤委員	<p>（資料2）</p> <p>（イ）8期計画など各種計画での課題も加味して、課題を見直すべきではないか？</p> <p>（ウ）退院支援のパターンを類型化する事業を構築してはどうか？それによって、多職種連携の形見えてくると思う。</p> <p>（オ）相談支援の内容を類型化してはどうか？</p> <p>（カ）神経難病や在宅呼吸器管理の方々に対する職種ごとの対応を研修会で開催してはどうか？</p>
事務局	<p>（イ）各種計画と連動した事業運営を行っております。</p> <p>（ウ）実務部会の協議事項で退院支援の類型化について提示します。</p> <p>（オ）相談支援の内容は類型化しております。相談支援における課題を整理しております。</p> <p>（カ）本事業で実施すべき研修内容について、実務部会で検討してまいります。</p>
	<p>（3）その他</p>

志真委員	<p>(資料 3、4)</p> <p>1) 資料 3、4 に示された指標はすでに決定されたものですか</p> <p>2) 黒田参事、浜野委員など専門家による部会（評価指標検討部会）で集中的に検討して、その結果を協議会で合意する手順を踏んでほしい。</p>
事務局	<p>部会での協議の途中経過をお伝えするための資料です。実務部会の協議内容を協議会で説明し、委員の皆様からご意見をいただき合意を得て事業を進めてまいります。</p>
成島委員	<p>(資料 3、4) ACP に関し周知を図るのは結構ですが、聞かない選択もあるのではないのでしょうか。</p> <p>特に終末期に近い場合本人、家族の希望に配慮が必要です。可能であればその点に関してのアンケートもお願いします。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、ACP の啓発には十分な配慮が必要と考えます。啓発内容・方法について委員また協議会外の専門職に意見聴取し検討いたします。またアンケートの実施に関しても内容・方法を検討してまいります。</p>
斎藤委員	<p>資料 4</p> <p>日常の療養支援：訪問リハ、通所リハを加えるべき。</p> <p>入退院支援：退院支援にリハビリテーション専門職の関与を入れるべき。特に急性期病院については必要である。</p>
事務局	<p>資料 4 は事務局で収集し得るありたい姿の事業評価指標を手引き記載の 4 つの場面に分類したものです。入退院支援の現状や課題については、今後とも入退院時に関与する専門職間の意見交換会を実施してまいります。本年度は退院調整看護師、医療ソーシャルと地域包括支援センター職員で意見交換会を実施しましたが、今後も課題に関与する専門職と協働で実施を進めてまいります。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>連絡事項</p> <p>いただいた御意見を踏まえ、本事業で実施する内容について整理し、優先順位を考慮します。令和 3 年度の事業計画（案）を再度作成し、令和 3 年度の推進協議会においてお示しいたします。</p>	